

彫刻機械の利用は、造形的に楽しい雰囲気
が味わえる、消費者のニーズの一つが楽し
い形にあると考えられるので、ソリッド材
によってある程度の量産をする上で特殊機
械による荒加工と、手仕上げをどの程度組
合せるかが、新製品開発の上でポイントに
なると思われる。

1. 蒔絵量産技法の開発研究

堀切 政幸

屋久杉荒木材利用と蒔絵技法によって、
屋久杉製品への技術開発を行ったものであ
る。継続研究のなか、ら請剤による発泡・
糸引き現象については改善されたもの、
オイル系シリコン剤添加のための付着性の
懸念や材料の経済性もあって、合成漆の利
用を特に試みたが、充分活用出来る見通し
がなかった。しかし深みのある光沢の保持性
などのハンディが多少あるので、この点が
今後の検討課題でもある。

2. 表面処理技法の改善研究

楠・屋久杉・タイヒ等を主材料とした試
作品に色調による材質感を効果的に表現し

て、その製品への付加価値を高めるもので
ある。

- (1) 楠材での桐タンス調仕上げは、素地色
の均一性から漂白処理を行った方が好結
果が得られた。濃色の場合でもス테인
着色でその彩色効果がみられた。
- (2) 屋久杉製品には一般的に漆塗装が施さ
れ、材色調整と重量感を付与しているが
塗肌の表面効果と漆塗製品の下塗工程と
する場合の塗料と、その方法を比較検討
して塗装法の改善を行った。
- (3) タイヒによる試作品には、木地色の強
調を計るために、ヌレ色現象を少なくす
ることで、色数の高いアクリル樹脂によ
る表面処理を行った。
- (4) ケヤキ材による旋削品には、髹漆とし
て春慶か木地呂塗が多く施されてきたが
今回は特に作業の能率を重点にとりあげ
た。したがってポリウレタン樹脂と合成
漆を併用しながら、主に摺漆技法をす
めた。

※ それぞれの試作品は第8回住いと暮らし
の工芸展において発表展示を行った。